

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

各務原市地域公共交通計画の評価等結果（令和5年4月～令和6年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
1カ月に1回以上公共交通を利用する人の割合：40%以上	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいバスの運行 チョイソコかかみがはらの運行 乗継・待合環境の改善 	令和5年度公共交通市民アンケート結果より	<ul style="list-style-type: none"> 34% 利用しない理由は、鉄道、バスともに「行きたい場所に行けない」との回答が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道や路線バス、ふれあいバス等乗り継ぐことでさまざまな目的地へ行けるよう、利用者の声や利用実績の分析をもとに、スムーズな乗り継ぎができる運行の見直しや乗り継ぎ拠点の整備を引き続き行っていく。 ふれあいバス那加線と鶴沼線を増便、1時間に1便のパターンダイヤ化により利用者が増加した。今後も、公共交通ネットワーク全体の利便性向上を目指す。 	令和6年3月に地域公共交通計画を作成した
市内公共交通機関の利用者数：1,807万人	<ul style="list-style-type: none"> 関係者との意見・情報交換 分かりやすい情報提供 	運行事業者からの報告	<ul style="list-style-type: none"> 1,647万人 感染症の影響で外出を控える傾向やテレワークの普及など公共交通を利用する機会が減少。利用は回復傾向にあるが、目標は未達となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 運転士不足により困難となっているバス路線の維持について、市と事業者とで対策を検討。チョイソコの運行についても関係者で意見交換をしながら進めている。 今後も関係者と協力して市内公共交通のあり方を検討し、持続可能な公共交通サービスの提供に努める。 	令和6年3月に地域公共交通計画を作成した
住民参加型の利用促進の取り組み件数：10件	<ul style="list-style-type: none"> チョイソコお出かけイベントの実施 観光施設と連携したデジタルチケット発行 	令和5年度事業報告より	<ul style="list-style-type: none"> 17件 月に1回開催する外出を促すさまざまなテーマのイベントは、公共交通を利用するきっかけにもなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通を維持するため、公共交通を利用する層を増やす取り組み、主に自家用車を利用する方も公共交通を移動手段の一つとして選択できる施策に取り組む。 さまざまな主体と連携して効果的な利用促進の取り組みを実施する。 	令和6年3月に地域公共交通計画を作成した
公共交通利用の不満割合：20%未満	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいバス等懇談会 	令和5年度公共交通市民アンケート結果より	<ul style="list-style-type: none"> 22%（未達成） 交通機関別に見ると、ふれあいバスの不満割合が最も高く、不満内容は「運行本数」が最も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年から、毎年、各地域で市民と公共交通の現状や方針を共有し、意見交換を行うふれあいバス等懇談会を実施しており、今後も継続する。 懇談会では、ふれあいバスの増便や停留所の新設、移設について高く評価する声があった。 	令和6年3月に地域公共交通計画を作成した

（記載に当たっての留意事項）

- 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「－」と記載して下さい。
- 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月14日

協議会名: 各務原市地域公共交通会議

評価対象事業名: 生活交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統確保維持計画)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
岐阜乗合自動車株式会社	ふれあいバス蘇原線	平成27年10月より運行しており、パターンダイヤや大型商業施設、総合病院への乗り入れを維持し、市内ふれあいバスで最も利用者数が多い路線となっている。	A 計画どおり事業は適切に実施	A 【目標値】 乗車人数49,000人/年 7.6人/便以上 【結果】 乗車人数56,611人/年 8.4人/便	・乗車人数、1便当たりの乗車人数ともに増加し、目標値を達成した。 ・ふれあいバス那加線が1時間に1便となったことで、同路線からの乗り継ぎ利便性が向上し、総合病院や公共施設への移動の選択肢が増えている。
岐阜乗合自動車株式会社	ふれあいバス東西線	通院等の利用が多い利用実態を踏まえ、令和元年10月より17時以降の利用が少ない便を廃止し、継続的に運行。総合病院や大型商業施設等への移動需要に対応している。	A 計画どおり事業は適切に実施	B 【目標値】 乗車人数15,000人/年 7.6人/便以上 【結果】 乗車人数 13,890人/年 7.2人/便	・市北西部の団地から商業施設への利用者が、1時間に1本に増便した那加線に移ったことで利用者は減少。 ・しかし、市東部からの総合病院への移動や通学には欠かせない路線のため、今後も運行し、日常の移動手段を確保する必要がある。
岐阜乗合自動車株式会社	ふれあいバス那加線	住宅団地から主要鉄道駅や商業施設、公共施設への移動手段を確保。令和5年10月からの増便・パターンダイヤ化により利便性が高まり利用者が増加した。	A 計画どおり事業は適切に実施	B 【目標値】 乗車人数29,000人/年 7.6人/便以上 【結果】 乗車人数49,219人/年 7.4人/便	・令和5年10月に11便から22便へ増便し、パターンダイヤとしたことで利便性が向上し、利用者が大幅に増加した。 ・1便当たりの乗車数は減少し、目標値をわずかに下回ったが、運行数が増えたことによるもので、今後も利用者が伸びれば目標を達成する見込み。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月14日

協議会名:	各務原市地域公共交通会議
-------	--------------

評価対象事業名:	生活交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統確保維持計画)
----------	--------------------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市総合計画では「笑顔があふれる元気なまち」を将来都市像として掲げ、市民やささまざまな団体などのつながりを大切に、すべての人が生きがいを持っていきいきと輝く都市の実現を目指しており、公共交通については、多様な交通手段により地域住民が利用しやすい公共交通ネットワークを形成することとしている。</p> <p>地域公共交通網形成計画後期計画においては、「公共交通を利用して、皆が健康で、安心かつ快適に暮らせるまち」を交通の将来都市像とし、令和6年4月から7年を計画期間とする地域公共交通計画では、交通の将来像を「公共交通を使って誰もが住み続けられるまち」としており、その実現のためには、市民、交通事業者、行政が一体となって、持続可能な公共交通ネットワークを形成、維持する必要がある。</p> <p>鉄道を広域的な都市間の移動、市内における東西の移動軸とし、幹線としての路線バスが鉄道とともに地域公共交通ネットワークを形成。これら幹線交通までのアクセスを確保するため、コミュニティバス「ふれあいバス」とデマンド交通「チョイソコ」を運行しており、住宅と地域の生活拠点や最寄り鉄道駅等を結ぶ支線の役割を果たす路線は、地域住民の生活に欠かすことができないため、需要に即した運行水準を確保する必要がある。</p>
-----------------------------	--

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
及び地域公共交通計画の評価結果 概要（全体）

各務原市地域公共交通会議

平成25年11月25日設置

令和6年3月 各務原市地域公共交通計画策定
（計画期間：令和6年4月～令和13年3月）

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

■各務原市の地域特性

- ・人口：144,263人、高齢化率28.9%（令和6年10月1日現在） ▶人口減少、高齢化が進行
- ・面積：87.81km² ▶市域の多くが平地。北部および東部丘陵地に高齢化率の高い住宅団地

■各務原市地域公共交通計画2024～2030

計画期間 令和6年4月～令和13年3月

交通の将来像

公共交通を使って誰もが住み続けられるまち

基本理念

皆で支える持続可能な公共交通

基本方針

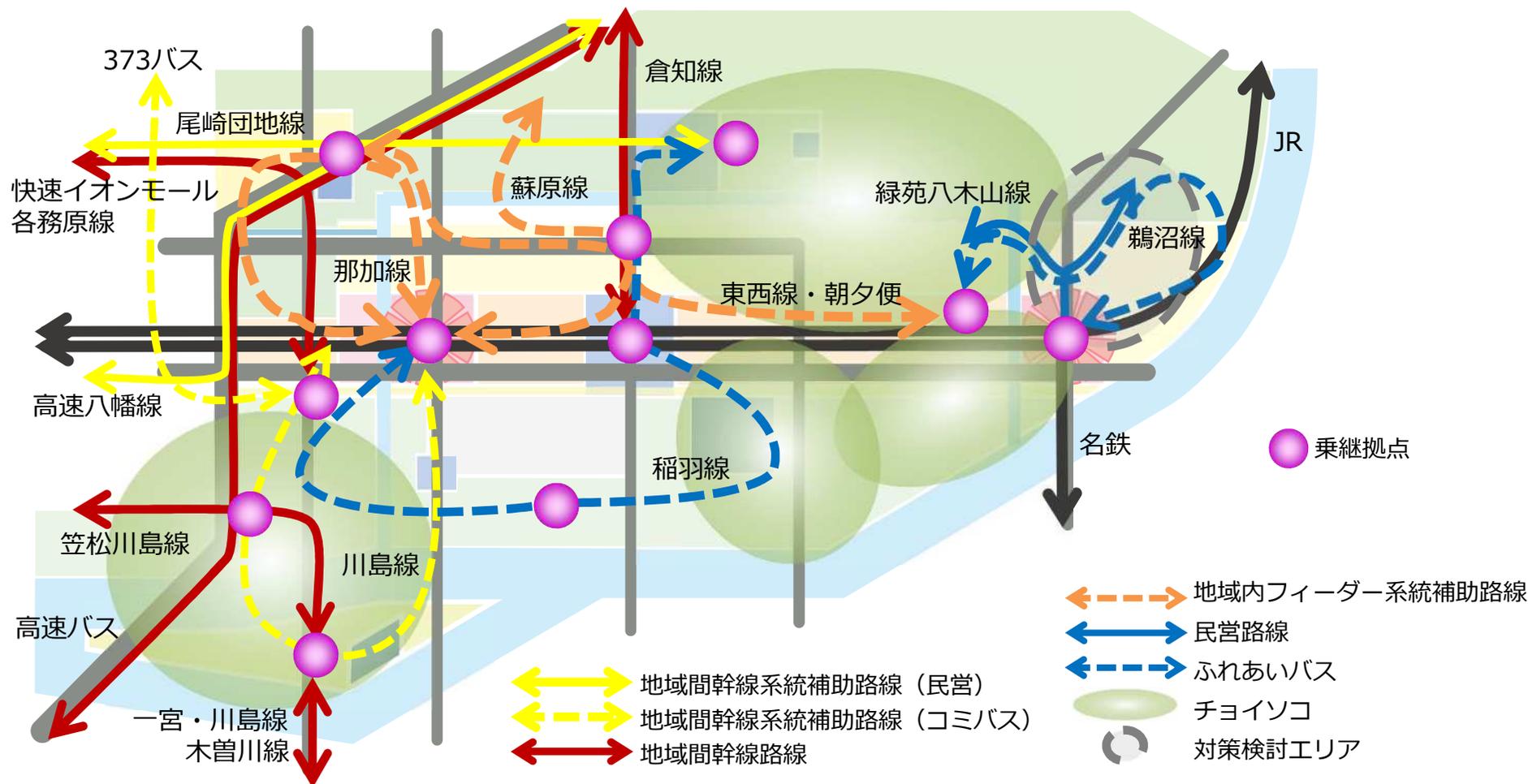
- 1 各務原市が目指す交通体系の姿を皆で共有し、三位一体の取り組みを進めます
- 2 鉄道を軸とした多様な公共交通の接続により、移動の選択肢を増やします
- 3 メインターゲットを明確にし、ターゲットに合わせた取り組みを推進します
- 4 将来を見据えた持続可能な公共交通の供給体制を確保・維持します

計画の目標

- 1 まちづくりと連動した公共交通ネットワークを構築します
- 2 乗り継ぎ利便性を向上させます
- 3 ターゲットに合わせた公共交通をデザインします
- 4 公共交通の確保・維持に向け、利用者を増やし、供給体制を確立します

■各務原市の公共交通ネットワーク

- ・ 鉄道を広域的な都市間の移動軸、市内における東西の移動軸とした公共交通網
- ・ 都市間の移動軸として、日常的な移動需要に対応し幹線系統バスが運行
- ・ 住宅団地や集落から、地域の生活拠点（公共施設、医療施設、商業施設等）や幹線交通までのアクセスを確保するコミュニティバス・デマンド交通を運行
- ・ 市内全域で、路線バスやデマンド交通で対応できない個人単位の需要を乗用タクシーがカバー



2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
<p>★コミュニティバス「ふれあいバス」の運行 (フィーダー補助系統あり)</p>	<p>立地適正化計画に定めた居住誘導区域を運行する那加線・鵜沼線を、1時間に1本のパターンダイヤ化。那加線増便のため車両購入。</p>	<p>那加線 (11便→22便、31,711人→49,219人) 鵜沼線 (19便→24便、44,601人→48,758人)</p>	<p>時刻が覚えやすくなり、増便により乗り継ぎの機会が増えた。利便性の向上が利用者数の増加につながっている。</p>
<p>デマンド交通「チョイソコかかみがはら」の運行</p>	<p>運行エリアの追加。鵜沼南エリア、須衛・各務・八木山エリアに加え、鵜沼南エリア②で運行を開始。</p>	<p>3エリア合計 (8,322人→11,975人)</p>	<p>エリアが増え、会員数、利用者数も増加。ふれあいバスよりも身近に停留所ができたことで、買い物や通院、駅までの移動に利用されている。</p>
<p>ふれあいバス等懇談会</p>	<p>各地域をまわり、市民と公共交通の現状や方針を共有し、意見交換を行う。平成25年から毎年実施しており、各地区の定点観測になっている。</p>	<p>市内11会場で全12回開催。参加者107人</p> 	<p>ふだん公共交通を利用している方だけでなく、これから利用するから話を聞きたいという方も参加。利用者間でのコミュニケーション、意見交流も行われる。</p>
<p>関係者との意見・情報交換</p>	<p>バス再編のワーキンググループ (岐阜バス)、チョイソコ研究会 (アイシン、市内タクシー事業者) で、課題を共有し、運行方法等について検討。</p>	<p>ワーキンググループ (10回) 名鉄バスホールディングスとの検討会 (4回) チョイソコ研究会 (3回) など</p>	<p>運転士不足により困難となっているバス路線の維持について、市と事業者とで対策を検討。チョイソコの運行についても関係者で意見交換しながら進めている。</p>

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
<p>チョイソコお出かけイベントの開催</p>	<p>高齢者等のお出かけを促すイベントを開催</p>	<p>毎月1回開催。 (参加者88人)</p> 	<p>スポンサー企業とのコラボレーション企画や、ふれあいバスに乗って市内施設へ行くプラン等を実施。外出促進のほか、普段車で移動している方が公共交通を利用するきっかけもつくっている。</p>
<p>交通系 I Cカードの利用環境整備</p>	<p>市内路線バス及びふれあいバスで I Cカードが利用できるよう、交通事業者が実施するシステム導入に要する経費の一部を市が補助</p>	<p>令和6年3月から、岐阜バスの路線バス、ふれあいバスで全国相互利用が可能な交通系 I Cカードが利用可能となった。</p>	<p>I Cカードで乗車したいという利用者からの要望に応えることができた。名鉄のmanaca利用であれば、ふれあいバスの乗継割引の適用が90分以内となり、乗り継ぎ割引時間を延ばしてほしいという声にも対応。</p>
<p>ふれあいバス停留所乗降環境整備</p>	<p>鉄道、路線バス、ふれあいバス4路線の乗継拠点となっている各務原市役所前駅停留所の拡張工事を実施</p>	<p>バス4台が停車できるよう、バスベイを拡張した。</p> 	<p>那加線の増便により、同じ時間に複数のバスが停車することになるため、停留所を拡張し、安全な乗降環境を整備した。</p>

成果指標 目標値（2030年）		達成状況							
		2023年	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
1.市内公共交通の利用者数	1,524 万人以上	1,647 万人							
2.公共交通に対する不満割合	22% 未満	22%							
3.乗継利便性の向上（拠点の整備）	4件	1件							
4.多様な主体が連携した利用促進の取組件数	6件	5件							

【考察】

- 令和5年度（2023）は、計画策定時の現況値（2022）1,524万人を上回る利用があった。鉄道、路線バス、ふれあいバス、チョイソコ、タクシーのいずれも、合計では利用者が増加しているが、一部、利用が減少している路線があり、また、利用者数は増えているものの低い水準が続いている路線についても、今後の対策、見直しを検討する必要がある。
- 令和5年度に実施したアンケート調査の結果を計画の現況値としているため、同じ。
- ふれあいバス那加線の増便に伴い、安全な乗降環境を整備するため、各務原市役所前駅バス停の拡張工事と、移設するバス停設置のための縁石切り下げ工事を実施した。
- チョイソコお出かけイベントなど引き続き実施するとともに、新たな取り組みも検討していく。

■ ふれあいバス・チョイソコかかみがはらの実績

評価 A：サービス維持 B：路線継続 C：路線見直しの必要性有

種別	路線	利用者数（前年比）	人	補助	評価指標	評価
ふれあいバス	鵜沼線	48,758	(+4,157)	県補助		A
	那加線	49,219	(+17,508)	フィーダー	29,000人/年	A
	稲羽線	45,535	(+2,664)	県補助		A
	川島線	44,762	(+3,223)	地域間幹線		A
	蘇原線	56,611	(+3,633)	フィーダー	49,000人/年	A
	東西線	13,890	(-5,039)	フィーダー	15,000人/年	B
	東西線朝夕便	1,565	(-652)	県補助		A
チョイソコかかみがはら		11,975	(+3,653)			A
合計		272,315	(+29,147)			

【考察】

ふれあいバス那加線と鵜沼線を増便し、パターンダイヤとしたことで、特に、倍近く便数が増えた那加線の利用者が大幅に増加した。その他の路線でも利用者が増えている一方で、東西線と東西線朝夕便の利用者が減少している。これは、那加線の利便性が向上したことで、住宅団地から商業施設へ行く際に東西線を利用していた方が那加線を利用することになったことが大きな要因となっている。利用が減少しているものの、東西線は総合病院への通院や高校への通学には欠かせないため、運行時間や乗り継ぎダイヤを見直しつつ、路線を維持する必要がある。

計画目標の現在の到達点	今後の取組方針
<p>市内公共交通の利用者数は増加傾向にあり、目標値を上回っている。</p>	<p>人口減少、高齢化が進み、運転士不足が深刻化する中、公共交通は、交通事業者だけでなく行政や地域住民など関係者が協力して維持していかなければならない。</p> <p>地域公共交通会議での意見交換、協議のほか、交通事業者とのワーキンググループやチョイソコ研究会、その他情報共有の場を設け、公共交通の確保に向けて検討し、取り組みを進めており、今後も継続していく。</p> <p>ふれあいバスやチョイソコの運行に関しては、まちづくり施策との連動を図り、ふれあいバス等懇談会での意見や自治会要望などで把握するニーズ、人流データや利用実績のデータから移動の実態をふまえ、限られたリソース（予算・運転士）を効率よく配分し、地域の実情に合わせた公共交通を設定していく。</p> <p>人口減少下においても目標値以上の利用となるよう、公共交通ネットワークを確保・維持し、利便性の向上、利用促進に取り組む。</p>
<p>乗継拠点の整備は計画期間中に4件を目標としている。</p>	<p>乗継拠点となる駅や施設の停留所の乗降環境を整え、安全を確保し乗り継ぎにかかる負担を低減するほか、さまざまな目的地へ移動できる公共交通ネットワークを確保し、公共交通での移動の選択肢を増やす。</p>
<p>多様な主体が連携した利用促進の取り組み件数は目標件数に満たないが、各者での実施する利用促進の取り組みは行われている。</p>	<p>各者での取り組みに加えて、多様な主体が連携することで、より効果的な利用促進事業を実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物や通院、観光など、目的に合わせて、商業施設や観光施設などと連携 ・ 住民や住民主体の団体と連携し、公共交通の紹介や利用をPR ・ 児童や生徒に向けた公共交通に触れる機会の提供 ・ 高齢者に限らず、公共交通を利用しておでかけするイベントの実施

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	市のまちづくり施策や観光施策など、他の分野や施策とも連携を図り、公共交通の更なる利便性向上や利用促進に取り組まれることを期待します。	新たに整備された公園に公共交通で行くことができるよう、敷地内へのバスの乗入、停留所の設置について関係者と協議し、準備を進めている。	まちづくりや観光、福祉等、他分野との連携を図り、さまざまな主体と連携して公共交通の利便性の向上と利用促進に取り組む。
	交通事業者、その他関係者との連携や協働を深め、待合環境など利用環境の向上についても検討や取組を進められることを期待します。	鉄道駅周辺でのバスの乗降環境の改善について、交通事業者や関係部署と検討している。	交通事業者や関係者との情報共有、意見交換の機会を設け、協働による利用環境整備などの取組を進める。
	分析や課題整理を行い、次期公共交通計画への反映とその後の取組の推進を期待します。	地域公共交通網形成計画の事業評価を行い、課題の整理と対応方針を検討して地域公共交通計画を作成した。	地域公共交通計画の基本方針と計画目標の達成に向け、関係者とともに各種施策を実施していく。
前々回	市やバス、タクシーに加え、鉄道や観光施設などと連携した「共創」による持続可能な地域公共交通の確保・充実が更に推進されることを期待します。	鉄道・バス・観光施設が連携し、交通と施設入場料・割引券がセットになったチケットを販売して利用促進に取り組んだ。	今後も、公共交通利用のきっかけとなるような企画を、交通事業者、観光施設のほか、地域事業者等の協力を得て実施していく。
	交通以外の分野（教育・医療・介護など）も含めた地域の多様な関係者と協議しながら、地域に合った適材適所の交通サービスの実現に向けて、地域が主体となって新たな交通計画が策定されることを期待します。	作成を進めている新たな公共交通計画では、公共交通を維持していくため、地域住民と交通事業者、行政が一体となって取組み、多様な主体が連携・協働して利用促進策を実施することとしている。	福祉や都市計画、まちづくり等、交通以外の分野とも情報を共有しながら、地域の実情にあった持続可能な公共交通をデザインし、公共交通を使って住み続けることができるまちを目指す。

※前回：令和6年3月21日、前々回：令和5年3月10日

〈年間単位の進捗管理、評価スケジュール〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
公共交通会議 運賃料金協議会		●				※必要に応じて開催				●		
施策準備・実施	→											
		◆確保維持改善事業計画										
実施事業の評価・ 改善											◆自己評価 →	
地域公共交通計画 指標のチェック										→		

〈協議会の実施状況〉

第40回協議会（令和5年度第3回） 令和6年1月12日

主な議題：地域公共交通計画の策定について、路線バスの廃止および新設、公共交通確保維持改善事業の自己評価

第41回協議会（令和5年度第4回）

主な議題：地域公共交通計画の策定について

第42回協議会（令和6年度第1回） 令和6年5月31日

主な議題：地域公共交通確保維持改善事業計画、事業報告及び決算、事業計画及び予算、チョイソコかわしまの運行

第43回協議会（令和6年度第2回） 令和6年11月6日

主な議題：ふれあいバスの改正